

富士山の火山活動解説資料（平成 22 年 10 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

国土地理院の観測によると、山体周辺の GPS による地殻変動観測で、2008 年 8 月頃からみられた地下深部の膨張傾向を示すと考えられる伸びの変化は、2010 年初め頃から鈍化の傾向がみられ、現在は一部の基線を除き停止しています。

その他の観測データで浅部の異常を示す変化はなく、噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 2）

萩原（富士山山頂の東南東 18km）に設置してある遠望カメラでは、山頂部に噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 1※）

山体直下を震源とする高周波地震の発生は 2008 年後半頃から若干増えています。深さ 15km 付近を震源とする深部低周波地震は少ない状況でした。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 3※）

国土地理院の GPS 観測によると、山体周辺の GPS による地殻変動観測で、2008 年 8 月頃からみられた地下深部の膨張傾向を示すと考えられる伸びの変化は、2010 年初め頃から鈍化の傾向がみられ、現在は一部の基線を除き停止しています。

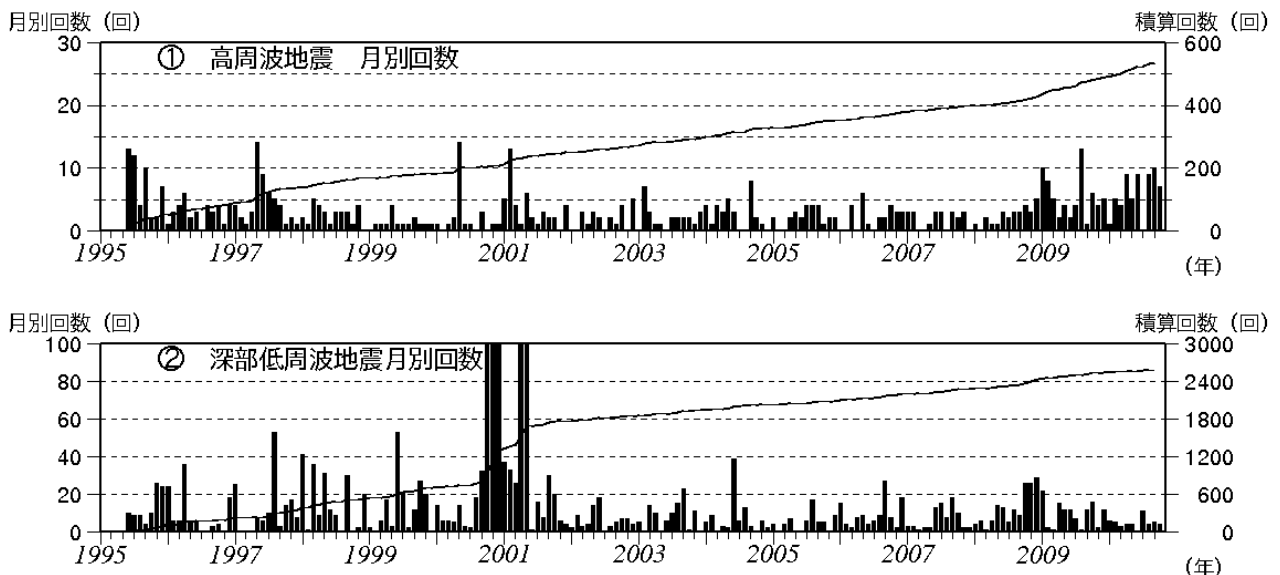


図 1※ 富士山 月別地震回数(1995 年 6 月～2010 年 10 月)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 11 月分）は平成 22 年 12 月 8 日に発表する予定です。

※この記号の資料は気象庁のほか、東京大学、国土地理院、独立行政法人防災科学技術研究所及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。



図 2 富士山 山頂部の状況
(10 月 23 日 萩原遠望カメラによる)

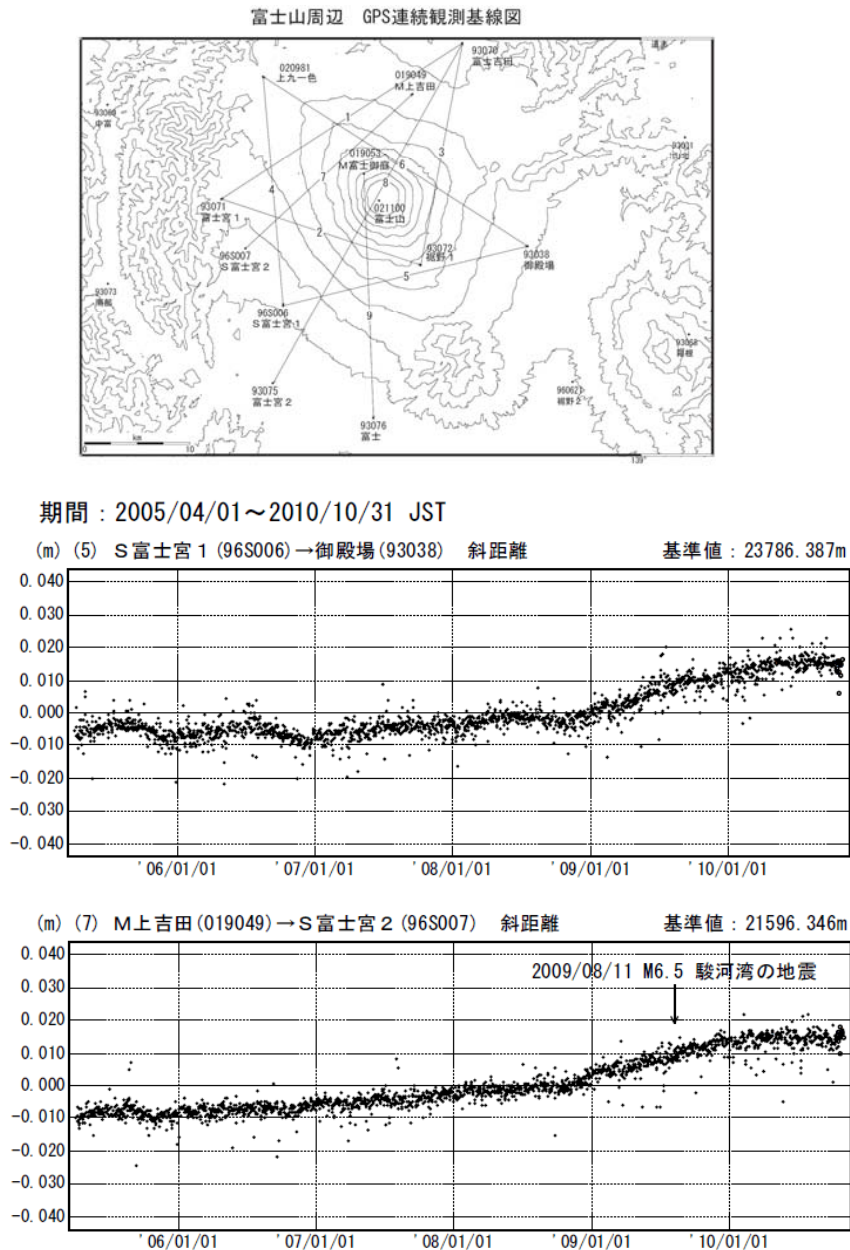


図 3※ 富士山 国土地理院による GPS 観測結果¹⁾ (2005 年 4 月 1 日～2010 年 10 月 31 日)

上図：S富士宮 1 に対する御殿場の斜距離の変化

下図：M上吉田に対する S富士宮 2 の斜距離の変化

図 3 地図中の他の基線のデータについては国土地理院が公表している資料を参照ください。

1) 最終解は国際的な GPS 観測機関 (IGS) が計算した GPS 衛星の最終の軌道情報 (精密暦) で解析した結果で、最も精度の高いものです。速報解は速報的な軌道情報による解析結果で、最終解に比べ精度は若干下回りますが、早期に解を得ることができます。

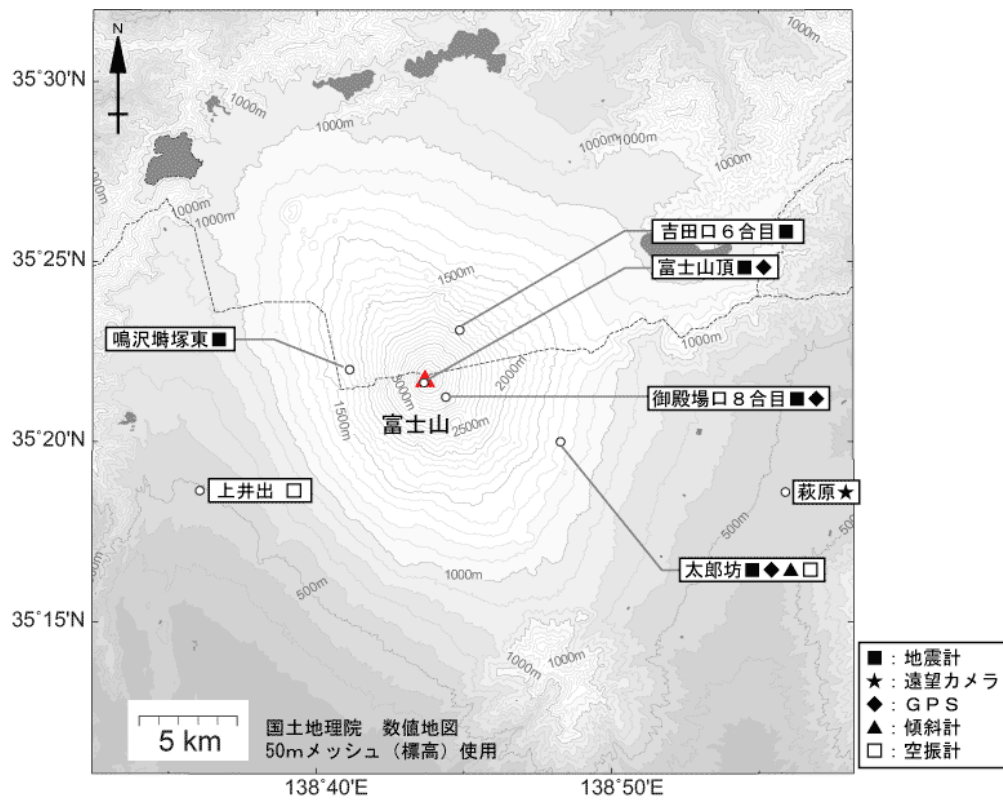


図 4 富士山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
運用開始前の観測点も含みます。